



国立映画アーカイブ開館記念

日本におけるロシア年2018

ロシア・ソビエト映画祭

Inaugurating NFAJ:

Russian & Soviet Film Festival at the Year of Russia in Japan 2018

2018年7月10日(火) — 8月5日(日)
7-8月の休館日▶▶▶月曜日、8月6日(月) — 13日(日)

主催: 国立映画アーカイブ

ロシア文化フェスティバル組織委員会

特別協力: モスフィルム、株式会社パンドラ、ローク

企画協力: 井上徹(エイゼンシュテイン・シネクラブ代表)



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

東京国立近代美術館フィルムセンターは、
2018年4月1日より国立映画アーカイブとなりました。



国立映画アーカイブ [2階]

長瀬記念ホール OZU

定員=310名(各回入替制・全席自由席)

前売券

6月26日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各100席分)を販売します。各上映の前日23時59分まで販売。[Pコード:558-526]

前売料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円

※「アナ・カレニナ ヴロンスキーの物語」と「マチルダ」のみ下記の特別料金となります。

前売特別料金:一般1,500円/高校・大学生・シニア1,100円/小・中学生及び障害者(付添者は原則1名まで)520円

- ・別途発券手数料がかかります。
- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・学生、シニア(65歳以上)の方は証明できるものをご提示下さい。
- ・チケット購入方法や発券手数料等については、4頁をお読みください。

当日券(発券=2階受付)

料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

※「アナ・カレニナ ヴロンスキーの物語」と「マチルダ」のみ下記の特別料金となります。

特別料金:一般1,500円/高校・大学生・シニア1,100円/小・中学生及び障害者(付添者は原則1名まで)520円/国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズ料金あり(教職員1,000円/学生900円)

◆当日券で入場される方には、開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間については4頁のスケジュール欄をご覧ください。

- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・当日券の発券は、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・当日券の発券は各回1名につき1枚のみです。

入場方法

- ①前売券をお持ちの方は、開場時(開映30分前)に、前売券に記載された整理番号順にご入場いただけます。
 - ②その後は、当日券の整理券をお持ちの方が、整理番号順にご入場いただけます。前売券をお持ちの方は、随時ご入場いただけます。
- 前売券・当日券は当日・当該回のみ有効です。

国立映画アーカイブ開館記念

日本におけるロシア年2018

ロシア・ソビエト映画祭

Inaugurating NFAJ:
Russian & Soviet Film Festival
at the Year of Russia in Japan 2018

国立映画アーカイブでは、「日本におけるロシア年2018」に合わせ、ロシア文化フェスティバル組織委員会と共同で、当館では12年ぶりとなるロシア・ソビエト映画の特集上映を開催します。文化政策上の転換やそれに伴う創作への制約をたびたび経験しながらも、常に多彩な才能と多様な作品を生み出してきたロシア／ソビエト映画の中から、当館が所蔵する日本語字幕付きモスフィルム作品を中心に、24プログラム(29作品)を上映します。「社会主義リアリズム」時代の作品から、巨匠エイゼンシュテインの作品、チュプライやボンダルチュクら戦後の新しい波、文芸作品の映画化やノルシュテインのアニメーション、そして現代ロシア映画を率いるシャフナザーロフ監督とウチーチェリ監督の最新話題作まで、バラエティ豊かなロシア／ソビエト映画をお楽しみください。会期初めには、シャフナザーロフ監督とウチーチェリ監督の舞台挨拶も予定しています。皆さまの来場をお待ちしています。

- ㊟=監督 ㊟=原作・原案 ㊟=脚本・脚色 ㊟=撮影 ㊟=美術 ㊟=音楽 ㊟=出演 ㊟=解説・ナレーション
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 上映作品にはすべて日本語字幕が付いています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 7/13(金)3:00pm 7/25(木)7:00pm

マクシムの青春(96分・35mm・白黒)

Юность Максима

『十月の冒険』(1924)以来、コンビで映画作りを続けていたコージツェフとトラウベルグによる「マクシム三部作」の第一部。平凡な労働者のマクシム(チルコフ)が、日曜学校の教師ナターシャ(キバルジナ)に啓発され、職業革命家へと目覚めていく。本三部作は、1934年に「社会主義リアリズム」を唯一の芸術様式として公式化したソビエトにおける代表的な映画シリーズとなった。

1935(レンフィルム) ㊟㊟グリゴリー・コージツェフ、レオニード・トラウベルグ ㊟㊟アンドレイ・モスクヴィン ㊟㊟エヴゲニー・エネイ ㊟㊟ドミトリー・ショスタコヴィチ ㊟㊟ボリス・チルコフ、ステパン・カユーコフ、ワレンチナ・キバルジナ、ミハイル・タルハノフ

2 7/12(木)3:00pm 7/28(土)4:00pm

最後の夜(96分・35mm・白黒)

Последняя ночь

1917年10月のモスクワにおける資本主義「最後の夜」の、労働者と工場主の家庭内のさまざまな出来事を通して、歴史の大転換期に生きた人々を描いた群像劇。監督のライズマンは本作以降、脚本家のガブリローヴィチと40年にわたり協働し、『マーシェンカ』(1942)や『コミュニスト』(1958)といった名作を生んだ。

1937(モスフィルム) ㊟㊟ユーリー・ライズマン ㊟㊟ドミトリー・ワシーリエフ ㊟㊟エヴゲニー・ガブリローヴィチ ㊟㊟ドミトリー・フェリドマン ㊟㊟アレクセイ・ウトキン ㊟㊟アレクサンドル・ヴェアブリク ㊟㊟イワン・ペリツェル、マリヤ・ヤロツカヤ、ニコライ・ドローヒン、アレクセイ・コンソフスキー、ウラジーミル・ポポフ、ニコライ・リュビニコフ

3 7/13(金)7:00pm 7/26(木)7:00pm

マクシムの帰還(104分・35mm・白黒)

Возвращение Максима

「マクシム三部作」の第二部、党の有力活動家となったマクシム(チルコフ)の、第一次世界大戦直前の闘争が描かれる。マクシムは多くの革命家の特徴や経験に基に創作された架空の人物であるが、当時の観客には実在していると信じられ、マクシム宛てのファンレターや相談の手紙が殺到したという。

1937(レンフィルム) ㊟㊟グリゴリー・コージツェフ、レオニード・トラウベルグ ㊟㊟レフ・スラーヴィン ㊟㊟アンドレイ・モスクヴィン ㊟㊟エヴゲニー・エネイ ㊟㊟ドミトリー・ショスタコヴィチ ㊟㊟ボリス・チルコフ、ワレンチナ・キバルジナ、アレクサンドル・ズラジェフスキー、アナトリー・クズネツォフ、ミハイル・ジャーロフ、アレクセイ・ボンジ

4 7/10(火)3:00pm 7/27(金)7:00pm

アレクサンドル・ネフスキー

(108分・35mm・白黒) Александр Невский

中世ロシアにおける、君主ネフスキー(チェルカソフ)率いるノヴゴロド軍とドイツ騎士団との戦いを、「社会主義リアリズム」路線以降、過去の自分の作品を厳しく批判されていた巨匠エイゼンシュテインが描き、大成功を収めた作品。製作当時のソ連とドイツとの緊張状態が重ね合わされているが、公開の翌年に独ソ不可侵条約が結ばれると上映中止となり、41年のドイツ軍侵攻と同時に再公開された。

1938(モスフィルム) ㊟㊟セルゲイ・エイゼンシュテイン ㊟㊟ドミトリー・ワシーリエフ ㊟㊟ピョートル・パヴレンコ ㊟㊟エドゥアルド・ティッセ ㊟㊟ヨシフ・シュベネリ、ニコライ・ソロヴィヨフ ㊟㊟セルゲイ・プロコフィエフ ㊟㊟ニコライ・チェルカーソフ、ニコライ・オフロプコフ、アンドレイ・アブリコソフ、ドミトリー・オルロフ、ワシリー・ノヴィコフ

5 7/14(土)1:00pm 7/24(金)3:00pm

政府委員(103分・35mm・白黒)

Член правительства

1930年から1950年まで、共同監督としてコンビを組んだザルヒとヘイフィッツによる代表作。文字を読めない農婦の主人公(マレーツカヤ)がコルホーズ(集団農場)に加入し、やがて議長に選ばれ、さまざまな困難を克服して集団化を成功させるまでが描かれる。

1940(レンフィルム) ㊟㊟アレクサンドル・ザルヒ、ヨシフ・ヘイフィッツ ㊟㊟カテリーナ・ヴィノグラーツカヤ ㊟㊟アレクサンドル・ギンツブルグ ㊟㊟オリガ・フチェリニコフ、ウラジーミル・カリアーギン ㊟㊟ニコライ・チモフェーエフ ㊟㊟ヴェラ・マレーツカヤ、ワシリー・ワニン、ニコライ・クリュチコフ、コンスタンチン・ソロキン、ワレンチナ・テレーギナ

6 7/15(日)1:00pm 7/31(火)3:00pm

イワン雷帝 第1部(99分・35mm・白黒)

Иван Грозный

初代皇帝としてロシア帝国の強大化に尽力した「雷帝」イワン4世を描いた、エイゼンシュテイン最後の作品。第1部では、東西からの圧力で混乱するロシアを中央集権国家にまとめ上げる過程が描かれる。撮影は戦火を逃れて、疎開先のアルマアタ(現カザフスタン)でなされた。

1945(アルマアタ中央合同撮影所) ㊟㊟セルゲイ・エイゼンシュテイン ㊟㊟アンドレイ・モスクヴィン、エドゥアルド・ティッセ ㊟㊟ヨシフ・シュベネリ ㊟㊟セルゲイ・プロコフィエフ ㊟㊟ニコライ・チェルカーソフ、リュドミラ・ツェリコフスカヤ、セラフィマー・ビルマン、パーヴェル・カードニコフ、ミハイル・ジャーロフ、アンヴォロシー・ブーチマ、ミハイル・クズネツォフ、ミハイル・ナズワノフ、フェヴォロド・ブドフキン

7 7/15(日)4:00pm 7/31(火)7:00pm

イワン雷帝 第2部

(85分・35mm・パートカラー)

Иван Грозный (Сказ второй: Боярский заговор)

1946年にモスクワで完成された第2部では、イワン雷帝と貴族たちによる権謀術数渦巻く暗闘が描かれる。だが、時の権力者スターリンからは、独裁者の孤独と狂気を描いた作品として不興を買い、ようやく公開されたのは1958年、エイゼンシュテインとスターリンの両名が歿した後であった。一部撮影された第3部のフッテージも、ほとんど破棄された。最後のカラー部分は、エイゼンシュテイン唯一の色彩映像。

1946/1958(モスフィルム) =アルマアタ中央合同撮影所) ㊟㊟セルゲイ・エイゼンシュテイン ㊟㊟アンドレイ・モスクヴィン、エドゥアルド・ティッセ、㊟㊟ヨシフ・シュベネリ ㊟㊟セルゲイ・プロコフィエフ ㊟㊟ニコライ・チェルカーソフ、ミハイル・ジャーロフ、アンヴォロシー・ブーチマ、ミハイル・クズネツォフ、アンドレイ・アブリコソフ

8 7/17(水)3:00pm 8/2(木)7:00pm

鶴は翔んでゆく(96分・35mm・白黒)

Летят журавли

一通の召集令状が幸せなカップルを引き裂き、ボリス(バターロフ)は戦場で消息を絶つ。ヴェロニカ(サモイロフ)はボリスの帰りを待たず、彼の従兄弟と結婚してしまう。流麗でみずみずしいカメラワークを実現した撮影監督ウルセフスキーは、その後も『怒りのキューバ』(1964)などの力作でカラトローゾフとコンビを組んだ。旧日本公開題は『戦争と貞操』。

1957(モスフィルム) ㊟㊟ミハイル・カラトローゾフ ㊟㊟ヴィクトル・ローゾフ ㊟㊟セルゲイ・ウルセフスキー ㊟㊟エヴゲニー・スヴィアテルエフ ㊟㊟モイセイ・ワインベルグ ㊟㊟タチヤーナ・サモイロフ、アレクセイ・バターロフ、ワシリー・メルクウリエフ、アレクサンドル・シュヴォーリン、スヴェトラナ・ハリトノフ、コンスタンチン・ニキーチン、ワレンチン・ズブコフ

9 7/11(水)3:00pm 7/24(火)7:00pm 8/4(土)1:00pm

誓いの休暇(87分・35mm・白黒)

Бабада о солдате

第二次世界大戦中、功績を挙げた褒美として6日間の特別休暇をもらった19歳の兵士アリューシャ(イワショフ)の帰郷を描く。『女狙撃兵マリユートカ』(1956)などの戦争映画でも知られるチュプライが、曇天から一瞬のぞく陽の光のようにはかない若者の安らぎに、戦争のむなしさを凝縮させた。

1959(モスフィルム) ㊟㊟グリゴリー・チュプライ ㊟㊟ワレンチン・エジヨフ ㊟㊟ウラジーミル・ニコラエフ、エラ・サヴェリエフ ㊟㊟ボリス・ネメチェク ㊟㊟ミハイル・ジーフ ㊟㊟ウラジーミル・イワショフ、ジャンナ・プロホレンコ、アントニーナ・マクシモワ、ニコライ・クリュチコフ、エヴゲニー・ウルバンスキー、エリザ・レジディ

10 7/14(土)4:00pm 7/26(木)3:00pm

人間の運命(101分・35mm・白黒)

Судьба человека

若くして人民芸術家の称号を得た名優・ボンダルチュクの初監督作品で、原作はミハイル・ショロホフの同名小説。思えない青春時代を過ごした主人公(ボンダルチュク)が、似た境遇の女性(キリエニコ)と結婚して一男二女を授かり、ようやく幸福を手にしたかと思えたが、第二次世界大戦の勃発により、彼の人生は暗転してしまう…。第1回モスクワ国際映画祭グランプリ受賞。

1959(モスフィルム) ㊟㊟セルゲイ・ボンダルチュク ㊟㊟ミハイル・ショロホフ ㊟㊟ユーリー・ルキーン、フォードル・シャフマゴノフ ㊟㊟ウラジーミル・モナホフ ㊟㊟イポリット・ノヴォデリヨシキン、セルゲイ・ヴォロコフ ㊟㊟ヴェニアミン・パスネル ㊟㊟パーヴリク(パーヴェル)・ポリスキス、ジナイダ・キリエニコ、パーヴェル・ヴォロコフ、ユーリー・アヴェーリン

11 7/21(土)12:30pm 8/3(金)7:00pm

ホヴァンシチナ(131分・35mm・カラー)

Хованщина

ムソルグスキーの同名オペラを映画化。ピョートル大帝が目指す西欧的な近代化に反対する、ホヴァンスキー公一派の謀反の顛末が描かれる。題名は「ホヴァンスキー事件」の意味。オペラ完成前にムソルグスキーが亡くなったため、複数の作曲家により異なる実用楽譜が作成されてきたが、本作のショスタコヴィチ版は最も原曲に忠実と評価されている。

1959(モスフィルム) ㊟㊟ヴェラ・ストロエワ ㊟㊟アンナ・アブラモワ ㊟㊟ドミトリー・ショスタコヴィチ ㊟㊟ヴィクトル・ドムプロフスキー ㊟㊟アレクサンドル・ポリゾフ ㊟㊟モダスト・ムソルグスキー ㊟㊟アレクセイ・クリフチェンヤ、アントン・グリゴリエフ、エヴゲニー・キバカロ、マルク・レイゼン、アレクセイ・マスレンニコフ、マイヤ・プリセツカヤ

12 7/17(火)7:00pm 7/29(日)1:00pm

復活 前篇(99分・35mm・カラー)

Воскресение (1-я серия)

レフ・トルストイが1899年に発表した同名小説を映画化。各国で映画化されてきたが、日本では、悲運の女性カチュシャの物語として知られている。若い貴族ネフルードフ(マトヴェーエフ)が殺人事件の裁判の陪審員を務めることになるが、その被告カチュシャ(ショミナ)は、彼が以前弄死に捨てた女性であった。

1960(モスフィルム) ㊟㊟ミハイル・シヴェイツェル ㊟㊟レフ・トルストイ ㊟㊟エヴゲニー・ガブリローヴィチ ㊟㊟エラ・サヴェリエフ ㊟㊟ダヴィド・ヴィツキー ㊟㊟ゲオルギー・スヴャリドフ ㊟㊟タマラ・ショミナ、エヴゲニー・マトヴェーエフ、パーヴェル・マサリスキー、ヴィクトル・クラコフ、レフ・ソルトウーヒン、マリヤ・ヴィングラドワ、ニコライ・セルゲーエフ

13 7/18(水)3:00pm 7/28(土)1:00pm

娘たち (96分・35mm・白黒) Девчата

シベリアの村でコックとして働き始めたトーシャ (ルミヤンツェフ)は、素直で明るい女の子。男の子のイヤ(リュブニコフ)に親しきされ、これが恋だと大喜び。やがてそれは、イヤとその悪友たちによる悪戯であることが分り、トーシャは彼との絶交を決意する。だがこの時、イヤは本当にトーシャを好きになっていた…。心温まるロマンティック・コメディ。

1962(モスフィルム)◎ユーリー・チュリュキン◎◎ボリス・ペドヌイ◎チモフェイ・レベシェフ◎ユーリー・ライズマン◎アレクサンドラ・バフマトワ◎ナデージダ・ルミヤンツェワ、ニコライ・リュブニコフ、リュシエナ・オフチンニコワ、スタニスラフ・ヒトロフ、インナ・マカロワ、スヴェトラナ・ドルジナ

14 7/18(水)7:00pm 7/29(日)4:00pm

復活 後篇 (107分・35mm・カラー)

Воскресение (2-я серия)

カチューシャ(ショミナ)の置かれた過酷な状況に責任を感じたネフリュドフ(マトヴェエフ)は、彼女との結婚を決意しシベリアへ向かう。そして、彼女への扱いを刑事犯から政治犯に変え、労働の負担を軽減させる。しかし、政治犯の若者シモンソン(グーセフ)からカチューシャとの結婚を告白され、ネフリュドフは新たな悩みを苦しむことになる…。

1962(モスフィルム)◎◎ミハイル・シヴェイツェル◎レフ・トルストイ◎エヴゲニー・ガブリローヴィチ◎セルゲイ・ポルヤノフ◎アブラム・フレイジン◎ゲオルギー・スヴィリドフ◎タマラ・ショミナ、エヴゲニー・マトヴェエフ、ニコライ・セルゲエフ、アナスタシヤ・ズーエヴァ、ワシリー・リフノフ、ウラジーミル・グーセフ、クララ・ルミヤノフ

15 7/12(木)7:00pm 7/25(金)3:00pm 8/4(土)4:00pm

僕の村は戦場だった (95分・35mm・白黒)

Иваново детство

タルコフスキーの長篇第一作。ドイツ軍の長攻めにより家族を失った12歳の少年イワン(ブルリャエフ)が、祖国のために進んでバルチザンに参加し危険な任務に身を投じていく姿が、詩情豊かに描かれる。1962年ヴェネツィア国際映画祭サン・マルコ金獅子賞受賞。

1962(モスフィルム)◎アンドレイ・タルコフスキー◎◎ウラジーミル・ポゴモロフ◎◎ミハイル・パーヴェル◎ウラジーミル・ユンツォフ◎エヴゲニー・チェルナーエフ◎ヴァチエスラフ・オフチンニコフ◎コリーヤ(ニコライ)・ブルリャエフ、ウレンチナ・ズブコフ、エヴゲニー・ジャリコフ、ステパン・クルイロフ、ニコライ・グリニコ、ドミトリー・ミリュテンコ、ウレンチナ・マリヤヴィナ、イリーナ・タルコフスカヤ

16 7/19(水)3:00pm 8/5(日)1:00pm

ユーリー・ノルシュテイン選集

(計80分・DCP・カラー)

アニメーション作家ユーリー・ノルシュテイン(1941-)が世界的名声を確立した作品の選集。1920年代の前衛芸術を引用し、ショスタコーヴィチの革命交響楽に乗せてロシア革命を描く『25日・最初の日』、リムスキー=コルサコフのオペラ『見えざる町キータジ』に基づき、15〜16世紀のフレスコ画や細密画を用いて戦乱と文化衝突を表現した『ケルジェネツの戦い』、民衆絵画のモチーフを生き活きと動かしロシアのポピュラーな民話を語る『キツネとウサギ』、日本の浮世絵や水墨画の要素を取り入れてもどかしい恋模様を描く『アオサギとツル』、原作の児童文学を大胆に拡張し、驚きと幻想美に満ちた世界を実現した『霧の中のハリネズミ』、ノルシュテインの幼少期の記憶を掘り下げ昇華した映像詩『話の話』の全6本。

25日・最初の日 (9分・DCP・カラー)

25-e — первый день

1968(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン、アルカージー・チューリン◎◎ウラジーミル・サルハーノフ◎◎ドミトリー・ショスタコーヴィチ

ケルジェネツの戦い (10分・DCP・カラー)

Сеча при Керженце

1971(ソユズムリフィルム)◎◎イワン・イワノフ◎ワノー◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎ウラジーミル・サルハーノフ◎◎マリナ・ソコロワ、アルカージー・チューリン◎ニコライ・リムスキー=コルサコフ

キツネとウサギ (12分・DCP・カラー) Лиса и заяц

1973(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎テオドール・フニモヴィチ◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎ヴィクトル・ホフリアコフ

アオサギとツル (10分・DCP・カラー)

Цапля и журавль

1974(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎ロマン・カチャーノフ◎◎アレクサンドル・ジュコーフスキー◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎インノケンチー・スモクトゥノフスキー

霧の中のハリネズミ (10分・DCP・カラー)

Ёжик в тумане

1975(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎セルゲイ・コスロフ◎◎アレクサンドル・ジュコーフスキー◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎ヴァチエスラフ・ネヴィンヌイ、マリヤ・ヴィノグラドワ◎◎アレクセイ・バターロフ

話の話 (29分・DCP・カラー) Сказка сказок

1979(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎リュドミーラ・ベトルシェフスカヤ◎◎イーゴリ・スキダン◎◎ポーシム・フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ、ヨハン・セバスチャン・バッハ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト◎◎アレクサンドル・カリヤギン

17 7/19(木)7:00pm 7/27(金)3:00pm

五つの夜に (102分・35mm・パートカラー)

Пять вечеров

戦争に引き裂かれ、そのまま17年間離れ離れになった男女が再会する。今は中年となった二人の五夜の描写を通して、戦争の傷と互いの隔たりが浮き彫りになる。ミルコフが『オペラ・モフの生涯より』(1980)の撮影中断期間を利用して1か月ほど撮った、哀愁と抒情に満ちた小品。

1979(モスフィルム)◎◎ニキータ・ミハコフ◎◎アレクサンドル・ヴォロジン◎◎アレクサンドル・アダバシヤ◎◎パーヴェル・レーベシェフ◎◎アレクサンドル・サムレキン◎◎マイヤ・アバル・パノフスカヤ◎◎リュドミーラ・クルチェンコ、スタニスラフ・リュプシン、ウレンチナ・テリチキナ、ラリーサ・クスネツォワ、イーゴリ・ネフォード

18 7/21(土)4:00pm 8/1(水)3:00pm

アンナ・パブロワ (134分・35mm・カラー)

Анна Павлова

不世出のバレリーナ、アンナ・パブロワの伝記映画。幼少期から50歳で最期を迎えるまでの生涯が描かれる。ソ連と英国による合作で、バレエ映画の傑作『赤い靴』(1948)で知られるマイケル・パウエルがプロデューサーを務めている。「瀕死の白鳥」をはじめ『ジゼル』、「白鳥の湖」、「コッペリア」、「イーゴリ公」などのバレエ上演場が壮観。

1983(モスフィルム)◎◎ソヴィン・フィルム◎◎ボセイドン・フィルムズ◎◎エミリー・ロチャヌー◎◎エヴゲニー・グスリンスキー◎◎ウラジーミル・ナハツェフ◎◎ボリス・ブランク◎◎エヴゲニー・ドガ◎◎ガリーナ・ペリャエワ、ジェイムズ・フォックス、セルゲイ・シャクローフ、フェヴオロド・ラリオーフ、リーナ・ブルダコフ、ゲオルグ・ティミトリウ、マーティン・スコセッシ

19 7/22(日)12:00pm 8/2(木)3:00pm

転校生レナ (125分・35mm・カラー) Чучело

モスクワから祖父のいる地方の学校に転校してきた13歳の少女レナ(オルバカイテ)。優等生のジーマ(エゴロフ)に優しくされたのが嬉しくて、慣れない学校への登校も苦痛ではなかった。しかし、教師に告げ口をした彼をかばったことから、レナは激しいいじめの対象にされてしまい、ジーマも見て見ぬふりをしてしまう…。ペレストロイカ以前の教育現場を描いた社会派ドラマ。

1984(モスフィルム)◎◎◎ロラン・ブイコフ◎◎ウラジーミル・ジェレズニコフ◎◎アナトリー・ムカセイ◎◎エヴゲニー・マルコヴィチ◎◎ソフィア・グバイドウリーナ◎◎クリスチーナ・オルバカイテ、ユーリー・ニクロー、ミーチャ(ドミトリー)・エゴロフ、エレナ・サナーエフ

20 7/20(金)3:00pm 8/1(水)7:00pm

未来への伝言 (111分・35mm・カラー) Шаг

1961年、ソ連から超法規的措置で生ワクチンが輸入され、日本のポリオ禍は鎮静化へと向かう。松山善三監督『われ一粒の麦なれど』(1964)にも描かれたこの出来事に至る経緯を、生ワクチンの緊急輸入を訴えて奔走した母親・圭子(栗原)の視点から描く。監督のミッタは、本作に先立つ日ソ合作映画『モスクワわが愛』(1973)でも栗原小巻を演出した。

1989(モスフィルム)◎◎仕事◎◎アレクサンドル・ミッタ◎◎岩間芳樹、ピクトル・メレシコ、ウラジーミル・ツヴェートフ◎◎ワレリー・シュヴァーロフ◎◎坂口岳夫、イーゴリ・レメシェフ◎◎アルフレート・シュニトケ◎◎栗原小巻、レオニード・フィラトフ、オレク・タバコフ、内藤武敏、久米明、エレナ・ヤコヴレワ、ウラジーミル・イリイン

21 7/22(日)3:30pm 8/3(金)3:00pm

令嬢ターニヤ (149分・35mm・カラー)

Ингерасовка

昼は看護師、夜は娼婦という二重生活を送るターニヤ(ヤコブレワ)は、顧客のスウェーデン人から求婚される。だが、憧れの豊かな海外生活をつかむには、乗り越えねばならない数多くの障害—父との確執、金銭、自分の過去—があった。当時のソ連社会の一面を描いた本作は国内で大ヒットし、主演のヤコブレワを一躍スターに押し上げた。第3回東京国際映画祭審査員特別賞、最優秀女優賞受賞。

1989(モスフィルム)◎◎フィルムスターレット◎◎ビョートル・トドロフスキー◎◎ウラジーミル・クニン◎◎ワレリー・シュワロフ◎◎フレンチン・コノワロフ◎◎エレナ・ヤコヴレワ、トマス・ラウスチオラ、ラリーサ・マレフナヤ、アナスタシヤ・ネモリヤエフ、リュボフィ・ポリシチュク、インゲボルガ・ダブクナイテ、イリーナ・ロザノフ

22 7/20(金)6:30pm 8/5(日)3:30pm

フルスタリョフ、車を! (146分・35mm・白黒)

Хрусталёв, машину!

1953年冬、のちに「医師団陰謀事件」と呼ばれる事件に巻きこまれて逮捕されたクレンスキー将軍(ツリロ)は、なぜか釈放され、とある人物のもとへ送られる。反ユダヤキャンペーンが猛威を振るう、断末魔のスターリン独裁を背景としたこの映画は、時代のグロテスクさを具現化したかのような映像と音響の洪水が、つぶてのように観る者を襲い感乱する。寡作の巨匠ゲルマンによる、1990年代世界映画最重要作品の一つ。

1998(ソダベラガ)◎◎セッ・シネマ◎◎ゴスキノ◎◎レンフィルム◎◎PIEF◎◎アレクセイ・ゲルマン◎◎スヴェトラナ・カマリタ◎◎ウラジーミル・イリイン◎◎ウラジーミル・スヴェトザロフ◎◎アンドレイ・ペトロフ◎◎ユーリー・ツリロ、ニータルズラフ、ミハイル・テムンチエフ、エリー・ヤルヴェト、ジュニア、アレクサンドル・バシロフ、イワン・マツケヴィチ、アリ・ミシロフ

23 7/10(水)6:30pm

アンナ・カレニナ ヴロンスキーの物語 (138分・DCP・カラー)

Анна Каренина. История Вронского

『ジャズメン』(1984)『ゼロシティ』(1988)などが日本でも劇場公開され、現モスフィルムCEOでもあるシャフナザーロフの最新作。日露戦争で負傷し軍病院に入院したヴロンスキー(マトヴェエフ)が、病院長のセルゲイ(キシチェンコ)に、セルゲイの母アンナ(ボヤルスカヤ)との間に何があったのかを語る。トルストイの原作をベースに、20世紀前半に活躍した作家ヴィケンチー・ヴェレサエフの日露戦争文学の要素をまじえて物語世界を展開。

2017(モスフィルム)◎◎カレン・シャフナザーロフ◎◎レフ・トルストイ◎◎アレクセイ・ブジン◎◎アレクサンドル・クスネツォフ◎◎セルゲイ・フェヴラリョフ、ユリヤ・マクシナ◎◎ユーリー・ポテエニコ◎◎エリザヴェータ・ボヤルスカヤ、マクシム・マトヴェエフ、ヴィクトリー・キシチェンコ、キリル・グレンシニコフ、ウラジーミル・イリイン

© Mosfilm Cinema Concern, 2017

24 7/11(水)7:00pm

マチルダ (107分・DCP・カラー) Матильда

ロシア帝国最後の皇帝ニコライ2世(アイディンガー)と、バレエ史にその名を刻む名バレリーナ、マチルダ・クシェシンスカヤ(オルシャンスカ)の、若き日の悲恋を絢爛たる色彩で描く。世界的に注目を集めるポーランドの新進女優M・オルシャンスカが主演し、米国の映画音楽家M・ペルトラミが参加するなど国際色も豊か。

2017(ローク)◎◎アレクセイ・ウチーチェリ◎◎アレクサンドル・テレホフ◎◎ユーリー・クリメンコ◎◎ヴェラ・ゼリンスカヤ、エレナ・ジュエコフ、パーヴェル・ゼミヤンスキー◎◎マルコ・ペルトラミ◎◎ミハリーナ・オルシャンスカ、ラルス・アイディンガー、ルイーゼ・ヴォルフラム、ダニラ・コスロフスキー、インゲボルガ・ダブクナイテ、セルゲイ・ガルマシ



令嬢ターニヤ

月	火	水	木	金	土	日
7月	9 4 アレクサンドル・ネフスキー 3:00pm (108分)	11 9 誓いの休暇 3:00pm (87分)	12 2 最後の夜 3:00pm (96分)	13 1 マクシムの青春 3:00pm (96分)	14 5 政府委員 1:00pm (103分)	15 6 イワン雷帝 第1部 1:00pm (99分)
	23 アンナ・カレリーナ ヴロンスキーの物語 6:30pm (138分) *ゲストによる舞台挨拶あり	24 マチルダ 7:00pm (107分) *ゲストによる舞台挨拶あり	15 僕の村は戦場だった 7:00pm (95分)	3 マクシムの帰還 7:00pm (104分)	10 人間の運命 4:00pm (101分)	7 イワン雷帝 第2部 4:00pm (85分)
	8 鶴は翔んでゆく 3:00pm (96分)	13 娘たち 3:00pm (96分)	16 ユーリー・ノルシュテイン 選集 3:00pm (計80分)	20 未来への伝言 3:00pm (111分)	11 ホヴァンシチナ 12:30pm (131分)	19 転校生レナ 12:00pm (125分)
	12 復活 前篇 7:00pm (99分)	14 復活 後篇 7:00pm (107分)	17 五つの夜に 7:00pm (102分)	22 フルスタリョフ、車を! 6:30pm (146分)	18 アンナ・パブロワ 4:00pm (134分)	21 令嬢ターニャ 3:30pm (149分)
23	5 政府委員 3:00pm (103分)	15 僕の村は戦場だった 3:00pm (95分)	10 人間の運命 3:00pm (101分)	17 五つの夜に 3:00pm (102分)	13 娘たち 1:00pm (96分)	12 復活 前篇 1:00pm (99分)
30	9 誓いの休暇 7:00pm (87分)	1 マクシムの青春 7:00pm (96分)	3 マクシムの帰還 7:00pm (104分)	4 アレクサンドル・ネフスキー 7:00pm (108分)	2 最後の夜 4:00pm (96分)	14 復活 後篇 4:00pm (107分)
	6 イワン雷帝 第1部 3:00pm (99分)	18 アンナ・パブロワ 3:00pm (134分)	19 転校生レナ 3:00pm (125分)	21 令嬢ターニャ 3:00pm (149分)	9 誓いの休暇 1:00pm (87分)	16 ユーリー・ノルシュテイン 選集 1:00pm (計80分)
	7 イワン雷帝 第2部 7:00pm (85分)	20 未来への伝言 7:00pm (111分)	8 鶴は翔んでゆく 7:00pm (96分)	11 ホヴァンシチナ 7:00pm (131分)	15 僕の村は戦場だった 4:00pm (95分)	22 フルスタリョフ、車を! 3:30pm (146分)

■ 作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

ゲスト舞台挨拶のお知らせ

日時:7月10日(火)6:30pm『アンナ・カレリーナ ヴロンスキーの物語』の回
上映前にヴィタリー・キシチェンコさんの挨拶があります。

日時:7月11日(水)7:00pm『マチルダ』の回
上映前にアレクセイ・ウチャーチェリ監督の挨拶があります。

*逐次通訳つき
*トークイベントのみの参加はできません。

NFAJ デジタル展示室
下記ホームページからお入りください
<http://www.nfaj.go.jp/digital-gallery>

常設展ギャラリートーク
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
7月7日、8月4日

展示室(7階)

【企画展】
国立映画アーカイブ開館記念
没後20年 旅する黒澤明
横田寿文ポスター・コレクションより
Inaugurating NFAJ:
Kurosawa Travels around the World
The Masterworks in Posters from the Collection of Toshifumi Makita
2018年4月17日(火)~9月23日(日)
*月曜日、8月7日(火)~12日(日)、9月4日(火)~7日(金)は休室です。
国立映画アーカイブの開館記念企画となる本展覧会では、黒澤明研究家・横田寿文氏のコレクションから、世界約30か国にわたる黒澤映画のポスター 84点を中心に、海外とのかかわりを示す資料も展示し、その卓越した国際性に光を当てます。各国のデザイナーや画家たちの、作品の力感に沿った筆致や大胆で前衛的な解釈とともに(世界言語)としての黒澤映画をぜひ体感してください。
*詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

【常設展】企画展に併設
NFAJコレクションでみる
日本映画の歴史
Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFAJ Non-film Collection
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

開室時間=午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで)
※毎月未金曜日は午前11時~午後8時(入室は午後7時30分まで)
料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/シニア・高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料
*()内は20名以上の団体料金です。
*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。
*国立映画アーカイブが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

前売券の購入方法

[Pコード:558-526]

チケットぴあのお店、セブンイレブン、サークルKサンクスで購入
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

受付電話(0570-02-9999)で購入
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。
*毎週火・水2時30分~5時30分はシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイト(<http://w.pia.jp/t/nfaj-russia/>)で購入
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。
*手数料等の詳細については、上記チケットぴあのウェブサイトをご覧ください。
*前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

販売期間:6月26日(火)10時から各プログラムの上映の前日23時59分まで

2階受付では、「NFAJニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。
FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

fiaf

国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
▼交通:
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口2から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600
ホームページ:www.nfaj.go.jp